

平成30年度第3回北海道子どもの未来づくり審議会 議事概要

日 時 平成30年11月20日(火) 18:00~20:00
場 所 かでる2・7 1040会議室

出席委員 松本会長 / 多田副会長 / 野村委員 / 梅田委員 / 西村委員 / 川畠委員
/ 山田委員 / 稲葉委員 / 高階委員 / 遠藤委員 / 五嶋委員

事務局 花岡子ども未来推進局長 / 鈴木子ども子育て支援課長 /
森本自立支援担当課長 ほか

議 事

[審議事項]

(1) 第3期「北の大地☆子ども未来づくり北海道計画」の評価について

○事務局から、資料1に基づき説明。

○委員の主な発言(要旨)

- ・「結婚」のステージの婚活サポートセンターと婚活セミナーだが、労力を割いてやる必要はあるか。この労力をほかに振り向けることを含め、考える必要がある。
- ・「結婚が前提」の「結婚」のステージと感じた。結婚に至る前に子どもが生まれることも多く、そういうところも幅広く拾えるような、妊娠期からのスタートを考えて欲しい。
- ・放課後児童クラブの支援員について、国から支援員が一人でもいいという指針が出ている。学校の夏休みなど長期休暇時に職員配置が厳しい。
- ・放課後児童クラブについては、「人材確保と質の向上に向けて取組を進める」というのが基本。人数や実情に合わせて保育の質と安全とを評価して、議論すべき。
- ・夜間保育と休日保育は、6割程度の達成状況で、次年度も同程度で推移する見込みであるのに、課題の中に盛り込まれていない。
- ・地域子ども・子育て支援事業のうち、利用者支援事業が、道内では他府県に比較して、数が増えていないのが気になる。もっと道内に広げていく必要がある。
- ・親子の孤立を防ぐ身近な地域の居場所である地域子育て支援拠点事業や親子に必要なサービスの情報提供・相談を行う利用者支援事業も児童虐待の発生予防に大きな役割を担っている。
- ・妊娠期から子育て期にわたる切れ目ない支援の充実を図るという効果が出ているとのことだが、地域のネットワーク化が取組の中から抜けている。ネットワーク化があるからこそ切れ目ない支援につながる。
- ・離職率が全国に比べて高い状況にある根本的な原因を調査する必要がある。離職率の高い状況の中には、ブラック企業、長時間労働、モラルハラスメントがあると感じるので、労働環境の保護も課題である。
- ・男女平等参画の視点は「子育て」のステージに記載があるが、取組の文言としては入

っていない。「子育て」のステージか、「地域の環境づくり」のステージか、とも思えるが、むしろ計画の全体の進め方の観点と評価に入れるように、今後検討したらどうか。

- ・次世代教育のための出前講座が「結婚」のステージにあるのが、違和感がある。「地域の環境づくり」のステージ、あるいは、もっと的確なところを検討して欲しい。
- ・「社会全体で支える基盤づくり」という表題はすごくいいが、具体的な取組の目標が弱い。

(2) 第4期「北の大地☆子ども未来づくり北海道計画」の策定スケジュールについて
○事務局から、資料2に基づき説明。(承認)

[報告事項]

(1) 北海道子どもの未来づくり審議会社会的養育推進計画検討部会の設置について

○事務局から、資料3に基づき説明。

○委員の主な発言(要旨)

- ・これまでの「社会的養護」から「社会的養育」ということで、里親のより積極的な促進のみならず、市町村を単位として子育て支援、虐待防止ができるかが非常に重要である。
- ・委託先の目標値だけでなく、地域をベースにして子どもの自立支援まで含んだ計画をどう作るか、議論していただきたい。
- ・計画検討にあたって自立支援という観点で意見をいただくことは重要である。
- ・自立支援を都道府県なり市町村の業務とするのが、現在、厚生労働省で進められている社会的養育の検討方向。どのように地方自治体の中でコーディネートできるか、どのように仕組みを構築するかという観点が重要。

(2) 北海道子どもの未来づくり審議会及び北海道子どもの未来づくり審議会子ども・子育て支援部会の委員改選について

○事務局から、資料4、5に基づき説明。

○委員の主な発言(要旨)

- ・公募委員枠が減るということは外側から見てネガティブな印象がある。広く意見を求めることが必要なので、今後の検討課題としたい。